AI新法は怖くない！企業のための「AI安全活用」ガイド

人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律のポイント



NotebookLM

AI新法について、こんな疑問・不安はありませんか？



NotebookLM

結論！AI新法は「AIを禁止する法律」ではありません。

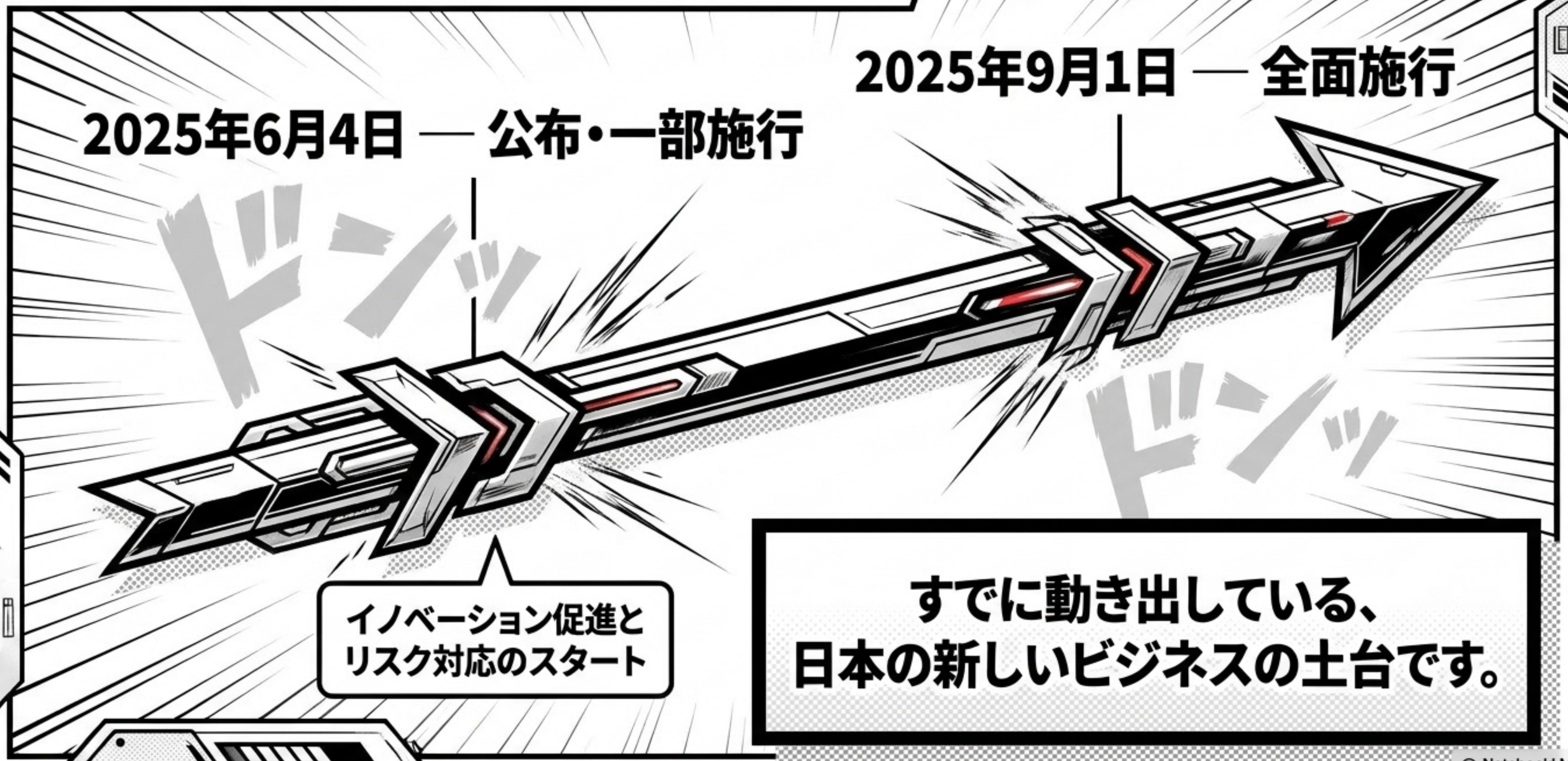


AIを安全に使いながら、
国として研究開発・活用を
進めるための
「基本法」です。

「AIを使うな」ではなく、
「AIを安全に、責任を持って使いましょう」
という前向きなメッセージです。

NotebookLM

いつの法律？（施行スケジュール）



NotebookLM

新法が決めている「4つの主な内容」

1



国の方針 — AIを日本の経済社会発展の基盤技術と位置づけ、活用を推進。

2



基本計画の策定 — バラバラではなく、国が方針を統一して進める仕組み。

3



戦略本部の設置 — 内閣に「人工知能戦略本部」を置き、政府全体で推進。

4



各主体の責務 — 国、自治体、企業、国民それぞれが「適正な活用」へ努力する。

NotebookLM

EUのAI規制との違い

日本（AI新法）



方針：活用推進 + リスク対応

罰則：基本的に重い罰則や禁止規定はなし

特徴：イノベーションを止めない土台作り

EU（AI法）



方針：厳格なリスク分類と規制

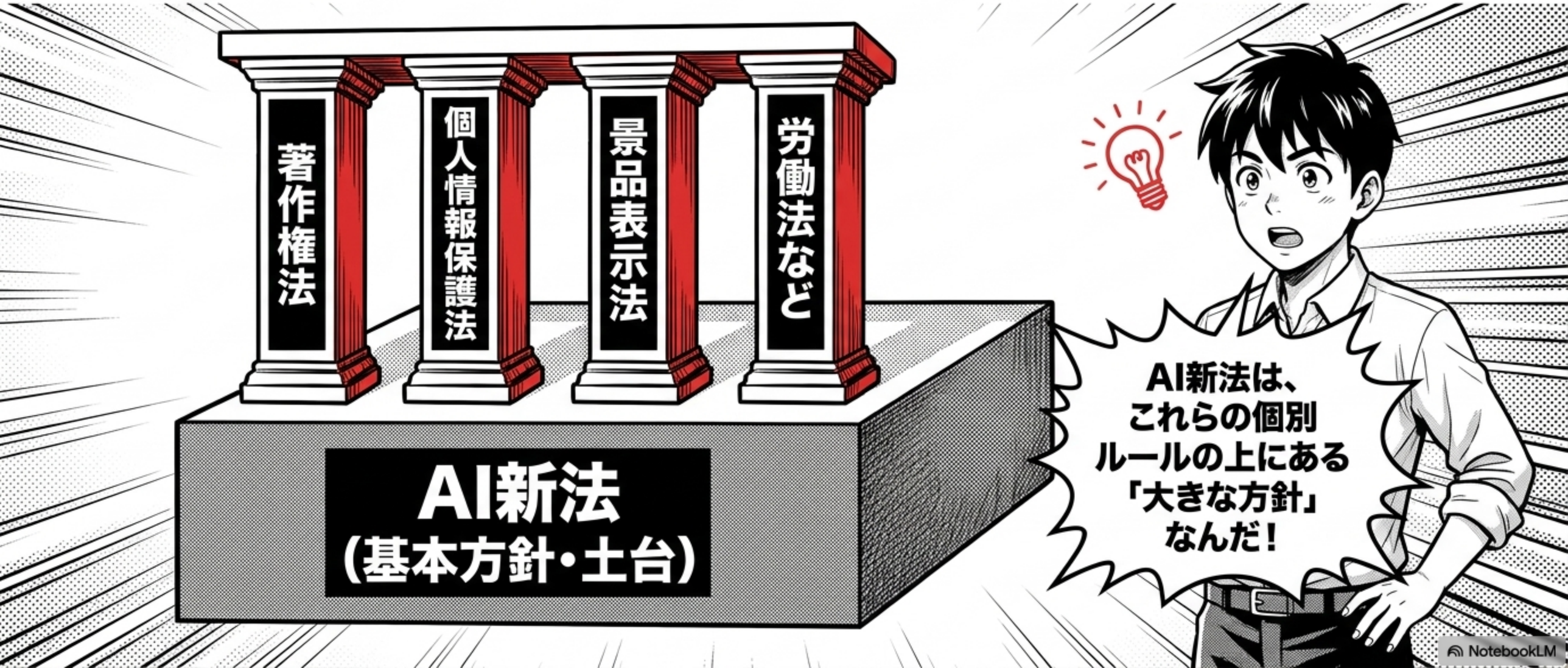
罰則：禁止行為の指定、違反には高額な罰金

特徴：トップダウンでの厳格な取り締まり

NotebookLM

「罰則がないから何でもOK」ではありません！

新法自体に重い罰則がなくても、既存の法律の罰に要注意。



NotebookLM

中小企業にとっての「AI新法」の影響

前向きな活用は大歓迎！

業務効率化、問い合わせ対応、資料作成、マーケティングなど

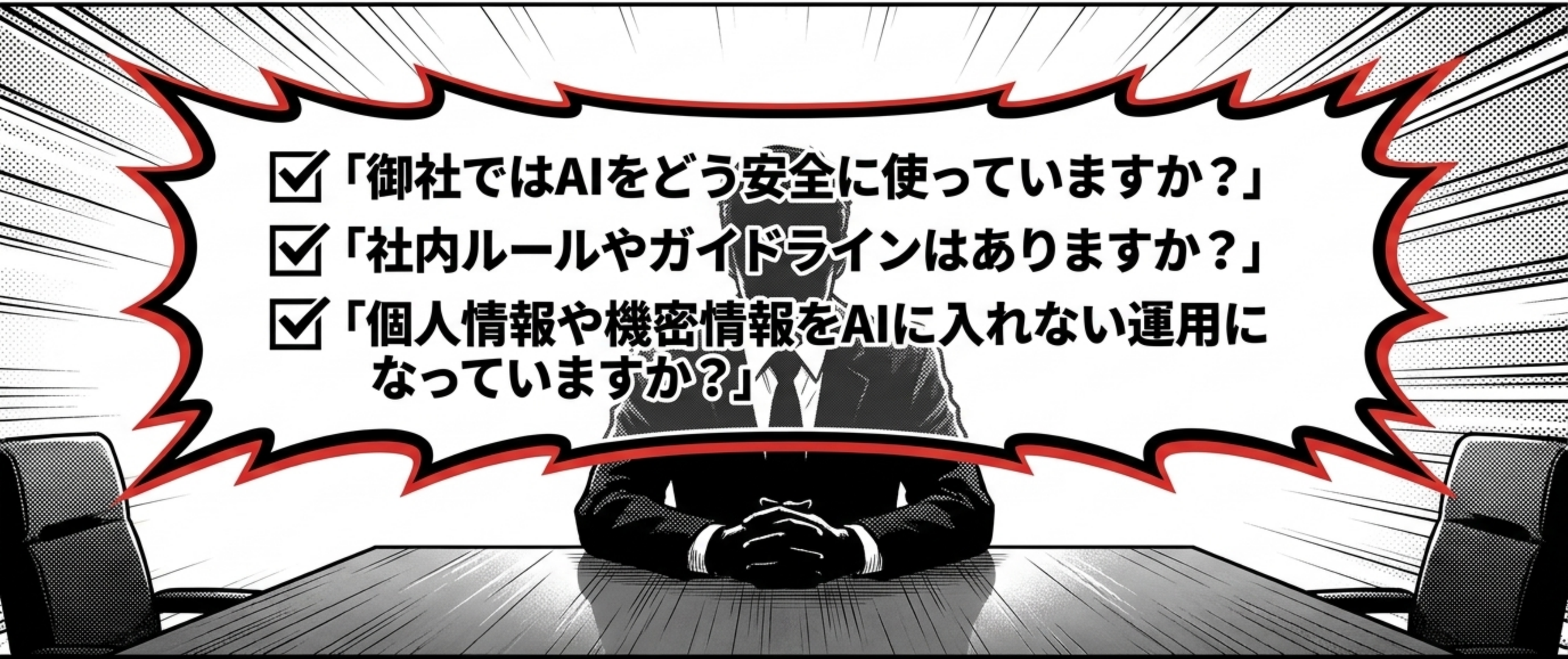
AIの出力を「そのまま信じて使う」のはNG！

以下のリスクは会社の信用問題に直結します：

- 誤情報の拡散
- 著作権侵害
- 機密情報・個人情報の漏えい
- 差別的表現

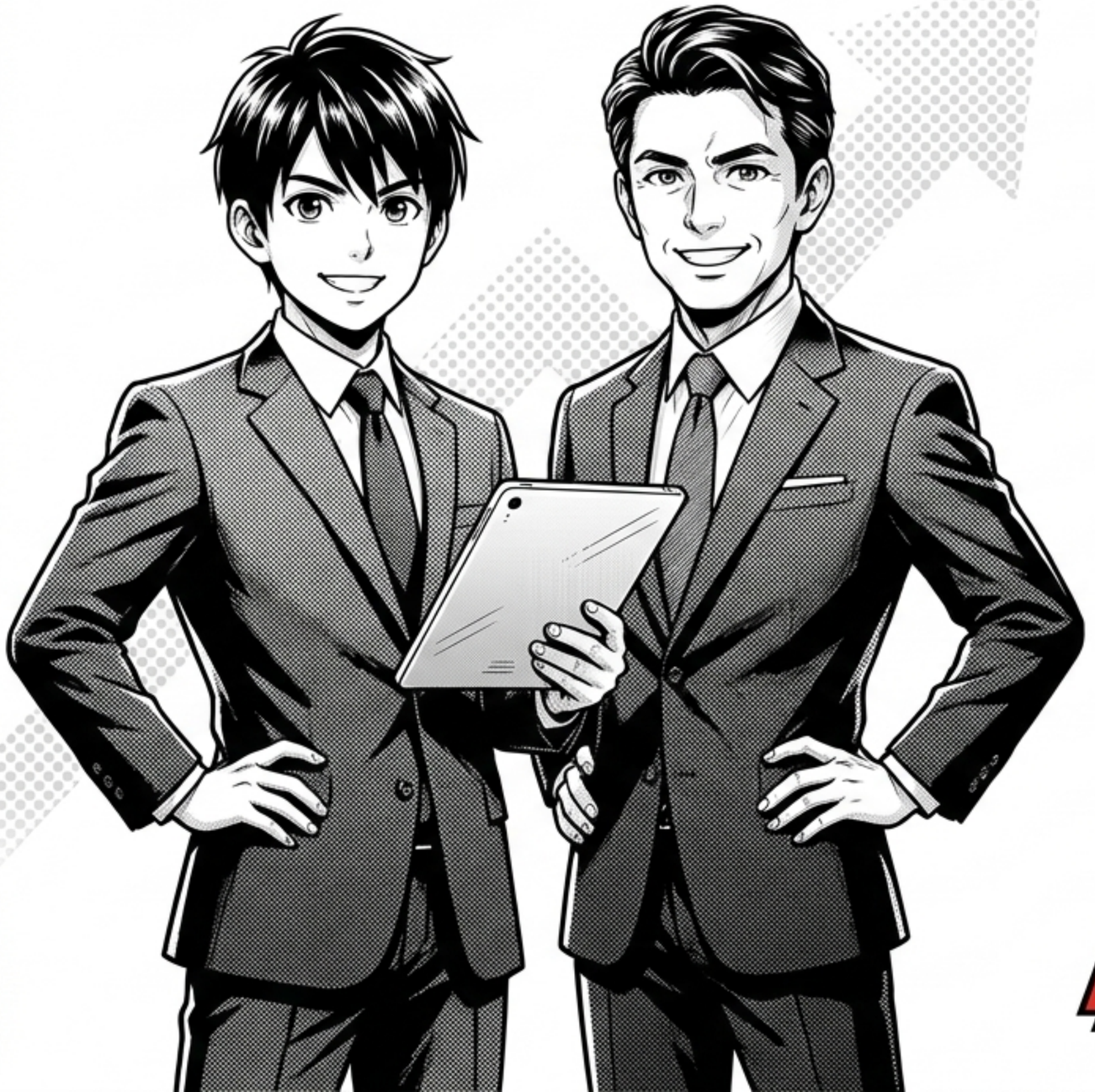
NotebookLM

今後、取引先や行政から必ず聞かれること



会社の信用を守るため、「安全に使うためのルールづくり」が急務です。

NotebookLM



まとめ：AI新法は、企業が成長するための土台です

- AIは「禁止」ではなく「活用」へ。
- ただし、個人情報や著作権、機密情報の入力には要注意。
- 自社に合った「安全な使い方のルール」を今すぐ作りましょう！

恐れずに、責任を持ってAIを使いこなしましょう！

NotebookLM